

柴田学園報 第3号 (年2回発行)

にわうるし

発行 学校法人柴田学園 〒036-8503 青森県弘前市上瓦ヶ町25番地 ☎0172-32-6151



知識と情報の宝庫 東北女子大学図書館

管理カウンター

学びの意欲を高める新環境



東北女子大学 学長 小澤 熹

東北女子大学は昨年八月、岩木山の眺望が素晴らしい清原キャンパスに移転しました。新校舎の面積は旧校舎の一・七倍に拡張されると共に管理、教育研究、学生に対するサービス空間の施設設備を全面的に改善整備しましたので、大学としての教育研究環境をはじめ、アメニティ全体が飛躍的に充実されました。

中でも、知の宝庫と言われる図書館機能の向上改善を実現したことが特筆されます。最新の図書管理システムの導入、パソコンによる検索、自動貸出し設備等を整え、更に、閲覧席を増設し、キヤレド付学習席を設けたこと、また、オーディオ・ビジュアルブース、インターネットコーナー、コピー機等を館内に設置して、総合的な情報収集が容易にできるようになりました。

新しいで、栄養士養成に欠かせない給食運営実習室に、最新鋭のハサップ(HACCP)設備を導入したことがあげられます。ハサップは食品材料の入荷から食卓にのるまでの、あらゆる危害要因を発見、防止するための重要ポイントです。モニタリングして、不良食品が人の口に入る危険を発見するシステムです。この設備のある給食運営実習室の授業で調理された給食用食事は、週一回、原価で教職員・学生にも提供されますので、大きな楽しみになっています。同時に下学年学生の栄養・食育教育へのモチベーションを高める効果をも発揮しています。

このような環境整備は、自ずと学生の学ぶ意欲を高め、優れた能力を発揮する人材育成に繋がると信じています。

新しい出会いに 心はずませ 学園各校入学式



被災地に希望の春が訪れることを祈りつつ、今年も学園7校が、入学式を行いました。4月9日に学園5校合同の入学式が弘前市民会館で行われ、東北女子大学、東北女子短期大学、東北栄養専門学校、東北コンピュータ専門学校、東北経理専門学校の新入生あわせて358人が、勉学に励むことを誓いました。また柴田女子高等学校では4月7日に入学式が行われ、普通科、家政科、情報科あわせて110

東北女子大学 第三者評価の適格認定を受ける

大学・短期大学の教育水準を維持向上するため、法律に基づいてすべての国公立大学・短期大学は、7年に一度、国が認定した大学評価機関の評価審査を受けることが義務づけられています。

東北女子大学は平成22年度に日本高等教育評価機構の審査を受けた結果、平成23年3月25日に、「評価機構が定める大学基準を満たしている」として条件なし

で認定されました。小澤学長は、「昨年は評価審査と校舎の新築が重なり大変でしたが、これを契機に、地域に根ざした大学として教育研究の更なる充実を図るとともに、有為な人材育成に専心していきたい」と語っていました。

また同じく昨年10月に短期大学基準協会による評価を受けた東北女子短期大学についても、年度内に「適格」との発表があり、5月



適格認定証を授与される河西短大学長

15日に東京で行われた平成22年度第三者評価適格認定証贈呈式に、河西学長とALOの七戸英之教授が出席しました。

人が保護者とともに出席。柴田幼稚園では4月8日に入園式が行われ315歳児あわせて36人が父母に見守られて出席し、余震による停電にもかかわらず、元気に手遊びをしていました。

名誉教授の称号が贈られる

多年にわたり学園の教育と学術の研究に尽瘁(じんすい)された功績により、東北女子大学では紺野仁教授に、22年4月1日付で名誉教授の称号記を授与しました。先生は昭和55年から30年間、栄養学及び食品学の分野で栄養士のレベル向



名誉教授称号記を授与される田口アイ先生

上に貢献されました。また、東北女子短期大学では、昭和48年から27年間、栄養士養成の栄養・調理分野を担当された田口アイ教授に、23年3月11日付で名誉教授の称号記を授与しました。

学園2校は10項目にわたる評価領域について審査を受けましたが、総評では優れた試みとして「建学の精神・教育理念の実現・達成に向けて順調に進捗している」「授業改善の見直しが行われている」「学習指導や学生指導がきめ細やかである」「教員の研究・社会活動の体制が整っている」などが上げられ、更なる向上・充実のための課題として、短大研究室の整備や学園財務の改善などがあげられました。

学園では今後も課題改善に努めていく方針です。

どうぞよろしく 新任紹介

- 田中夏海** 副手
東北女子大学家政学部家政学科卒業
担当教科 講義補助
所属 家政学科
- 三上健** 准教授
東北薬科大学大学院修了
前任 東北薬科大学
担当教科 食品衛生学
所属 生活科
- 八重樫裕幸** 教諭
弘前大学理学部卒業
前任 秋田看護福祉大学
担当教科 数学・C言語他
所属 学生課
- 熊谷明** 教諭
東北コンピュータ専門学校卒業
前任 マルマンコンピュータサービス
担当教科 ハードウェア他
所属 教務課
- 小山内悠祥** 教諭
弘前大学教育学部卒業
担当教科 地歴
所属 一学年担任・教務部
- 千葉慎也** 教諭
盛岡大学文学部児童教育学科卒業
(東北女子短期大学保育科卒業)
担当学年 年中組

東北女子大学

教員採用今年も順調



館山小学校教諭亀田さん

県内出身者が8割を占める本学では、近年採用数の多い関東圏や北海道を希望する人が増えてきました。平成23年度、県外の教員採用では、神奈川県11名、千葉県4名、埼玉県3名、東京都1名、岩手県(栄養教諭)1名、北海道5名の計25名が新卒教員として、それぞれ小・中・高等学校の教壇に立っています。そのうち16名(64%)が本採用で、初の栄養教諭誕生は後輩の励みとなる大きな二

ユースでした。本学では毎年2月に教員51名が上京し、首都圏の教育委員会や卒業生が勤務する小・中学校を訪問しています。現場からは「皆熱心で児童・生徒にとって良い先生として活躍している」という評価をいただいています。今年も最終日に関東在住の卒業生を対象に



自然に笑顔がこぼれた懇談会(ネットワーク)

懇談会(ネットワーク)を開催し、50人参加のもとで会食を共にしながら親睦を深めました。年代を超えた同窓の絆は首都圏で暮らす人たちの心の支えになっているようです。地域資源活性化研究センターが事業を開始

大学が地域の資源を研究活用して、積極的に地域社会の発展に関わっていくことを目的に、本学では平成



料理教室を楽しむ参加者

22年に「地域資源活性化研究センター(所長西山邦隆)」を開設しました。

5月21日(土)に本年度の事業の一つとして、弘前市水産市場活性化協議会主催(県弘前丸魚後援)で「おさかな料理教室」を開催しました。講師は今村麻里子・前田朝美先生で、34名の参加者は、はたてとヤリイカを使った料理に満足し、今後5回続くこの教室を楽しみにしていました。

当センターでは他機関との共同研究や公開講座・出前講座など、事業を活性化させていく方針です。

専門学校

東北栄養専門学校

インターンシップにチャレンジしています

栄養士の職域や興味のある業界の仕事を経験することを目的に、本人の希望も入れながらインターンシップを行なっています。22年度は1年生18名が弘前市東部給食センターや製菓会社で3日間から1週間の期間で実施しました。センターではコンピュータによる栄養管理業務や約6千食もの大量調理を体験。小学校では栄養指導等を、また製菓会社では製造、販売、接客を体験し、それらを通して衛生管理やプロの技・社会人としての姿勢を学んで帰って来ました。これら企業での経験は今後の勉学や就職活動に生かしている貴重な職業体験になっています。



小学校での栄養指導

東北コンピュータ専門学校

5月7日(土)29日 職業訓練実習を行いました

職業訓練実習は、毎年2年生自身が授業を計画し、実施後反省会を経て再度授業をするもので、いわば教育実習です。内容はMS Office構築とMS Officeアプリケーションの実行環境を整え、動作確認を行うというものです。

授業を受ける立場から実際授業をする立場になって、資料作り、リハーサル等の準備の大変さや、分りやすく教える工夫や気の配り方、時間配分の難しさなどを再確認しようです。その他、声の大きさ、視線、動作についても、人に見られていることを意識して臨むようになり、終了後は「この経験を卒後に生かしたい」と張り切っていました。



を再確認しようです。



学園ニュース

柴田女子高等学校

県高校総体6/4〜6/7 女子バスケットで堂々4連覇達成!!



女子バスケットボール決勝戦

柴田	13-15-19-24	71
聖愛	13-10-9-11	43

準決勝の弘実戦を101-51で下した勢いで迎えた聖愛高との決勝戦! 4連覇のプレッシャーはあったものの、中盤から相手の隙をつく攻撃で流れをつかみ、そのまま攻守安定した動きでリードを保ち、堂々4年連続10度目の優勝を果たしました。中野渡唯主将は「チーム一丸となり息を合わせるこ

とを目標にした。この後も気を抜かず頑張る」と、7月28日から本県を主会場に始まる全国高校総体への意気込みを見せていました。北東北総体スローガン「北東北総体スローガン」

平成23年度全国高等学校総合体育大会、2011熱戦再来北東北総体が7月28日から8月20日まで開催さ



歓迎ムードいっぱいの会場

和やかだった秀芝寮の新入生歓迎会。新しく50人の寮生を迎えた秀芝寮で、4月25日に歓迎会が行われました。寮には短大生のほかに専門学校の、柴田女子高校生も入っていて、青森、秋田、岩手県のはか遠くは埼玉県からも入寮しています。歓迎会では有志がテニス、ゲーム、ダンスで楽しんだ後に新入生が自己紹介し、温かい雰囲気の中で交流が深まりました。

JRC部員 さくらまつりで活躍

弘前さくらまつり期間中の4月23日〜5月5日まで、部員19名が弘前公園の清掃をするなど、奉仕活動を行いました。前半は震災の影響もあり客足が伸びませんでした。後半は来客数が大きく伸びました。参加した生徒は「年々マナーが良くなってきているので、ゴミの量も少なくなってきている」と話していました。



先輩の助言にナットク!

新卒の就職留年が話題になる中で、本学の3月卒業生の進路決定率は90%を超えました。先輩に聞くとうち、現在2年生は企業説明会に参加したり、エントリーをしたりして、積極的に就職活動を行っています。そこで、例年行っている「卒業生の個別相談」を5月31日に実施し、栄養士、幼稚園教諭、保育士に就いている先輩三人からアドバイスをもらいました。内定を得るまでの過程や、参考となる事例について、多くの学生から質問がでるなど、就職に対する意識の高まりが感じられました。

柴田幼稚園



園長先生のお話を聞く園児たち

「こわくないよ」先生の後について避難訓練 ウー、ウーとサイレンの音。続いて「避難訓練です。ブランコの所に避難して下さい」と放送が流れると、1階の出口から子ども達が

選べます。2分弱で避難完了。年間10回の訓練の中で5月は、サイレンを恐がらない、担任と一緒に逃げる、が目標です。一瞬サイレンに驚く子どもは泣く子ではなく、放送を聞いて無事避難! また余震が多いので、今後は地震を想定して訓練を続けていく予定です。身体測定はじまる 「大きくなったね」



5月に今年度初の身体測定を学年毎に行ないました。子ども達は準備から大変です。洋服を脱いだため、



資格取得に挑戦!

東北経理専門学校 目標を大切に 今春卒業した学生が学校を訪れ、「今の仕事はやりがいがあります」と嬉しい報告にきてくれました。どんな点が?と聞くと、「専門学校に入学した時の目標どおり医療事務の仕事に就いて、少しでも人の役に立っていると実感できるから」とのことでした。そして在学中はこの目標があったからたくさん資格にもチャレンジしたし、仕事をしてみても学生時代に学んだ「報告・連絡・相談」というコミュニケーションをし

っかりとる大切さがよく分かった、と話していました。この卒業生の言葉を今年入学した学生にしっかりと伝え、1年の短い間だからこそ自分の目標に真っ直ぐに向かい、資格を取得して就職につなげるよう励ましていきたいと思っています。